

人工関節友の会だより



病院長 宮尾益尚

～患者様と悩みを分かち合って～

振り返りますと平成 21 年 4 月、膝・股関節外科のエキスパートである涌井元博先生を副院長としてお招きする事ができました。

涌井先生はその温厚なお人柄と正確な医療技術で、膝関節・股関節痛でお悩みの患者様を多数救ってこられた、私の尊敬する医師の一人です。その涌井先生を複数の関節外科医がサポートし、当院においても年々人工関節置換術を受けられる患者様が増えてきました。

手術を受ける患者様は変形性股・膝関節症の方が多いのですが、それぞれ十人十色の症状を持っています。同じ年齢、同じ病名、同じ手術であっても、術前状態も術後経過も皆少しずつ違います。そして個々のお悩みも違うため、多くの患者様が手術前・手術後に様々な不安感をお持ちだと思います。

そんな皆様の不安を解消するため、医師・看護師・理学療法士達は違った立場から御協力差し上げるのですが、やはり患者様同士の情報交換は無くしてはならないものでしょう。

病院内やご近所での意見交換も大切ですが、お集まりになる人数は決して多くはありません。そんな情報交換の場を御提供できれば、という思いから、人工関節友の会設立委員会を発足、イベント開催へと進めるプロジェクトが立ち上がり、綿密な準備を経て、平成 24 年 5 月 12 日、第 1 回猫山宮尾病院「人工関節友の会」が開催されました。

当院で人工関節置換術を受けられた患者様 900 名弱に御案内を差し上げました。そして当日は 2 百数十名の方から御参加頂き、盛大にイベントを開催する事ができました。

涌井先生には特別講演をお願いし、変形性関節症とその治療についてわかりやすく説明して頂き、会場からの御質問にもお答え頂きました。

私が講演で特に印象に残った事は、「手術を受けて関節の痛みが取れたら、あなたは何をしたいですか?」と問いかけた時、ある程度明確な目標をお持ちの患者様は術後の経過も順調な事が多い、という内容でした。

人は年齢に関係なく、個人として何か人生の目標を持ち、それを妨げる問題を解決しつつ進んで行く事が重要である事実を、改めて感じさせて頂き、私も非常に共感を覚えました。

二本足で歩行する人間という動物の宿命であるとも言われる下肢の変形性関節症は、程度は違えども人間である限り全員に起こりうる関節の変化であるため、超高齢化社会の現代、関節痛という悩みを持つ患者様は増加するばかりです。しかしその関節痛を解決する術が存在する事を御理解頂き、同じ悩みを持つ者同士で情報を共有し、皆様に楽しい生活を送って頂けるよう我々は御協力できると信じ、今後も「人工関節友の会」イベントを通じて色々な情報を発信して行こうと思っておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。